



第2巻
第5号

平成24年5月10日

JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東日本大震災 MSW災害支援ニュース



群馬県前橋市のベイシア文化ホール
(第60回日本医療社会福祉協会全国大会の会場)

目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 現地支援活動報告①②③④⑤
3. 現地・事務所感想文

災害対策本部からのお知らせ

協力員募集！！

引き続き協力員を募集しています。

<現地> 特に平日が不足しております。

今月は21日以降の応募をいただいていませんので、ご協力をお願いいたします。

<事務所>引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に1回でも構いません。ご協力をお願いいたします。

皆様のご協力をお願いいたします。

次回災害対策本部会議について

5月12日(土)18:00~協会事務所 会議室にて本部のメンバーで今後の方針等を話し合います。
決定事項は後日ご報告させていただきます。

災害支援 SW 報告会について

(1) 大阪医療ソーシャルワーカー協会 「プロジェクト-i ミーティング」

日時：5月13日(日) 13:30~16:30

場所：大阪市社会福祉研修・情報センター 5階 大会議室

※詳細はホームページをご覧ください。

URL:http://www.jaswhs.or.jp/touhoku/info.php?@Page_Status@=none

(2) 神奈川県医療社会事業協会 主催

日時：5月18日(金) 19:00~

場所：県立神奈川近代文学館

※申込方法等は追ってホームページ上でご案内いたします。

研修情報

(1) 「被災地福島からの報告」

日時：5月20日(日) 10:00~11:30

場所：大阪府済生会千里病院 東館3階 講堂

(2) 「災害ソーシャルワーク研修Ⅰ」

日時：5月27日(日) 9:30~12:30

場所：高崎総合医療センター 2階 大会議室

※申込締切が5月12日(土)に迫っています。群馬県で行われる全国大会の翌日、
同県内での開催ですので、奮ってご参加ください。

※詳細はホームページをご覧ください。

URL: http://www.jaswhs.or.jp/touhoku/info.php?@Page_Status@=none

全国大会のご案内

5月24日(木)～26日(土)に群馬で開催の全国大会では、以下、災害関連の企画を予定しています。ご期待下さい。

・5月25日(金) 15:00～18:00 シンポジウム

「東日本大震災における医療ソーシャルワークを検証する」

岩手・宮城・福島各県から、保健医療福祉分野で活躍されている方々と医療ソーシャルワーカーをシンポジストに迎え、大災害時における保健医療福祉の連携の課題を討論します。

・5月26日(土) 9:00～12:30 分科会

第5分科会【教育・スーパービジョン・災害ソーシャルワークⅡ】にて現地支援活動と事務所支援活動について3演題発表します。

・パネル展示 昨年度1年間の活動を報告予定です。

・書籍販売

発災～2011年9月30日の活動記録集

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトン1』

を販売予定です。

<『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトン1』について>

全国大会で皆様にお披露目できるよう、2月下旬から編集作業を急ピッチで進め、この度、出版の目処が立ちました。

参加された方々からの報告書を元に、石巻、仙台、大槌町、災害対策本部、事務所の半年間の活動をまとめています。

全国大会以降、お買い求めいただけますので、どうぞご期待下さい。

Facebookでも情報をお伝えしています！



現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。
応援よろしくお願いたします。

-Facebook URL-

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

現地支援活動報告①

福庭 加奈（大阪府 市立堺病院）

期間：4月17日～4月20日

今回初めて参加させていただきました。私は大阪で阪神大震災を経験しましたが、まだ小学生だったため何もすることができませんでした。昨年の東日本大震災後、また自分は何もできていないことがずっと心に引っかかっていた。今回長期休暇の機会があり、今しかないと思い参加しました。

初日に石巻市の沿岸部を案内していただきました。震災から1年を経過しても瓦礫や廃車の山、崩れた家屋、壊滅状態の市立病院…現実世界とは思えない光景を目の当たりにしました。

活動期間中3つの仮設住宅団地の茶話会に参加しました。住民の方々からはあまり震災時のお話は聞かれませんでした。震災後1年を区切りに前を向いて行こうという思いが強くなった、震災のことは思い出さないようにしている、と教えてくださった方がいました。電話でも亡くなった家族の1周忌を終えて少し落ち着いて眠れるようになったというお話を聞き、1年を期に気持ちを新たにされる方が多いのかなと感じました。しかし仮設住宅の訪問などで、介護や継続療養、就労、アルコール、心理的支援など、まだまだたくさん問題があることもわかりました。今こそソーシャルワーカーの支援が必要な時期だと痛感しました。また今回の活動で、将来また災害がどこかで起こったときの備えとしてソーシャルワーカーとして何ができるか、どのような支援が必要かを経験を通して少し知ることができたことも大変有意義でした。

将来身近に災害が起こったとき、一度でも災害支援ボランティアの経験があるのとないのでは全く違うと思います。まさに「百聞は一見にしかず」です。あまり難しく考えず一度参加してみてください。

現地支援活動報告②

坂詰 明広（新潟県 白根健生病院）

期間：4月23日～4月27日

活動期間に、少子高齢化の真実と、日本人としての家族感や人生観を考えさせられた。雄勝で出会った礫処理をしていた男性からは『津波は死ぬ時を早めただけ。限界集落のこの地域に、復興と言って戻ってくる人は何人残っているだろう』という言葉聞いた。

被災地をMSWが知る意味は何か。被災地の悲惨さを知らなければ、援助者とクライアントの援助関係性にも差異が生じる。災害をどうとらえるかは、やはり現地を見て、聞いて確かめることが必須だ。

小生は、現地入りして武山さんの話に耳をそばだてた。『震災の今をとらえることは大事だが、求められていることは、MSWが関わることで減災につながる』という言葉聞き、目から鱗の状態になった。

小生の役目は、新潟県という矮小のものではなく、災害時のMSWの役目を、全国のSWに伝えていくにあると考えた。そのためにも、専門職同士を、“被災地のニーズ”で結びつけることの重要性、特にソーシャルワークの原点がここにあるということを強く伝えたい。非日常の生活状態から発生する課題を、他職種協同で取り組み解決していく体験と必要性を皆に伝え、つないでいきたい。

自分自身の地域で災害が起きた場合、SWは何が出来るのか、何をすべきなのかを体験を通じて学ぶことが出来ると思います。司馬遼太郎のいう、人格ができあがる前の40歳代の若い方に参加してもらえればと強く思います。

現地支援活動報告③

永島 里穂（神奈川県 グリーンヒルズ相模原）

期間：4月27日～4月29日

今回初めて現地ボランティアに参加させていただきました。緊張と不安を持ちながらの活動でした。仮設住宅へ MSW 活動の案内の配布や茶話会への参加といった活動の中で、住民の方々と話をさせていただく機会がありました。どんな表情でいたらいいのかさえ迷う時がありましたが、これまで（これから）色々な葛藤があることを思いながら、とても明るく話をしてくださる姿が印象的でした。また、私は震災の状況についてテレビや新聞等から情報を得るというだけで留まっていた。今回実際にその場に立つ、見る、聞くという経験をさせていただき、多くが想像以上でありイメージすることも出来ず、その場では何も浮かばなかったというのが正直な気持ちでした。一緒に活動してくださった SW の方々からもそれぞれの思いを知り、“何のために”をより考える機会になりました。まずは自分に出来ることを行っていきたく思います。ありがとうございました。

現地に行くことで感じる場合があります。心配や不安があってもサポートしてくださる方々がいてくれるのでぜひ安心して参加してみてください。

現地支援活動報告④

筒井 万紀子（神奈川県 戸塚共立リハビリテーション病院）

期間：4月28日～4月30日

今回で3回目の参加となりました。

初日は電話相談、仮設住宅へのピラ配り、東京のプロのモデル、カメラマン等が主催するフリーマーケットのお手伝いを行いました。2日目は、女川まで足を運び、女川町立病院、仮設住宅、「きぼうの鐘商店街」のオープニングセレモニー、遊楽館を視察しました。そして、最終日は、電話相談、茶話会にて、住民とクッキー作りを行いながら、震災当時の様子を伺いました。

今回、多くの仮設住宅を視察したことで、住宅という一つの観点から見ても、地域によって住民の置かれている状況は全く異なることが感じられました。

また、女川を視察した際、倒れたビルの前で、遺族の家族がビルを取り壊すことを反発し、言い争っている所を見て、1年が経ち、少しずつ瓦礫の片付けは進んでいるけれども、被災者にとってはまだ、震災は過ぎていない、今でも目の前にある現実なんだと痛感しました。

少しずつ日常の生活を取り戻しつつある方と、まだまだ、前に進めずにいる方との差が開いて来ているように感じられた。

想像するより、現地に行って得られることはずっと多いと思います。



オープニングセレモニーの様子

現地支援活動報告⑤

立川 真理子（東京都医療社会事業協会）

期間：4月30日～5月5日

在宅被災者へのフォロー電話と、仮設住宅の茶話会参加を中心に活動してきました。

今回1週間の活動の中で私が思案した課題は、需要と供給の合致です。

フォロー電話で、独居高齢者の方に電話を掛け、不便を感じていることの中に、買い物の足がないことを多く聞きました。そして、フォロー電話の相談の中で、利用客が被災されたため、集客が難しくなったスーパーをどうにかしたいという声がありました。

「買いたい」思いと、「売りたい」思いはありますが、それをつなげるものが不足していました。

その他に、改修が未完成な家の様子を電話で伺うと、大工さんが忙しいので、連絡を待っているという人が何件かいました。一方で、大手建設会社が介入して改修を進めたりしているので、地元の大工さんが、仕事がなくて困っているという情報もありました。

このような声をしっかり受け止め、記録に残し、各機関が集まって検討会を開いていくことで、少しでも何か改善できたら素晴らしいことだと思います。

被災者の方々は仕方がないと思い始めている部分も感じられました。しかし、専門職である私たちが諦めてはいけないと感じました。

行きたいと思っているものの、自分に何ができるか心配で、参加を躊躇している人はいませんか？心配ありません！現地に行って、見て、感じて、話して、食べて、買い物することが出来れば大丈夫です。1年目のMSWの方でも気兼ねなく参加できるボランティアだと思いました。



群馬県館林市の鶴生田川

現地感想文

4月23日(月)

肌寒い雨のぱらつく石巻。桜も咲くのを取りやめてしまいました。激動の毎日ですが、元気にとびまわっています。機動力のある若い方たちが被災地でたくさんの思いを感じてくれています。

4月24日(火)

今日は雄勝に詳しい方の協力があり、支援の方2人に貴重な経験をして戴きました。亡くなった方の出た雄勝病院、大川小学校など、胸に迫る場所の連続に、かなり精神的にも疲れたことと思います。しかしながら、仮設住民や仮設商店街、雄勝硯製造者宅での、優しいもてなしに、元気に帰ってきました。

4月25日(水)

いよいよ石巻の桜満開です。宿舎裏庭の桜も！春を楽しんでいます。寒いさむい時期に訪問した湊、渡波への再訪問、春が来たように良い知らせもあり、たくさん感謝されました。こころも春でした。

4月27日(金)

今日到着された現地支援員の方を交えて、日和山に登ってきました。満開の桜ごし、被災地域を眺めると一面の更地。その中で被災当時のままの市民病院周辺も見学。塩水を被って茶色く枯れた植木の足元から、緑の雑草が芽吹いていました。わずかに花をつける桜も。自然は強いですね。見習いたいです。

4月28日(土)

お花見日和の一日、たくさん仕事をしました。若くて元気なMSWに、こちらも足取りが軽くなります。東京から、たくさんの段ボールを満載のワゴンで、こちらも若いカッコイイモデルさんが、笑顔。たのしい支援でした。女川仮設でカンツオーネのチャリティコンサート、地元からもなじみの民謡を母ちゃんたちが。最後は歌う方も聴く方も涙だったそうです。

4月29日(日)

午前女川へ。こちらも桜が満開です。例年の開花は20日頃。こんなに桜が遅れた年はないそうです。昨年咲いた女川の二本桜は花がなく、枯れてしまった様子です。しかし本日、復興商店街「きぼうのかね商店街」がオープンし、女川病院の上の神社の祭りも復活(5/3)。

神輿が被災地域を普通のルートでまわるんだと話して下さった神社の事務長さんの笑顔が印象的でした。

4月30日(月)

本日も、今日から参加される方と一緒に日和山へ。山頂の神社のお知らせでは、5月15日に例大祭が行われ、御神輿が女川同様、被災地域を巡るそうです。

5月1日(火)

5月、さすがに花吹雪も終わりです。ポスティング中に話を伺った高齢男性の方。雄勝・味噌作で奇跡の生還体験をされ、しかし亡くなった方や遺族に配慮し誰にも話さずに来たそうです。「波と一緒に頭(=心)ももげて流されてしまった」気がするとも。

5月2日(水)

阪神震災後・長田で住民主体の地域再生を行ったNP0の方と情報交換。雄勝地区の若者の依頼で現地調査中との事ですが、地域再生の見込みについて悲観的な見解を伺いました。被災区域と代替地を自治体が購入し、住民に振り分ける方針ですが、抵当つきの土地や権利関係不明瞭の場合もあり、買取は難航しそうとのこと。10年後、長田は結局高層ビルとコンクリートの公園に。雄勝、そして石巻はどうでしょうか……。

5月3日（木）

東京に遅れること1日、今日の石巻は大変な風雨でした。

渡波方面チラシ配布のついでに、女川で被災地の方々の復興を祈願した2年ぶりの御神輿も見れるかと思いましたが断念。石の森萬画館も、先日ようやく修繕計画が石巻市議会を通過して、近々館内の修繕工事に入る見込みとのこと！明日はお休みを頂き、石ノ森萬画館の被災内部の視察に参加予定。観光復興のためにも再開が待ち遠しいです。

5月6日（日）

毎日めまぐるしい天気です。今回の暴風雨で、北上はまた避難勧告。加えて、毎日震度3クラスの地震が続き、今日は雷鳴の中、また揺れて…。春を迎えて前を向こうとしているのです。

連休中は、朝からパンパンと花火も上がって、祭りやイベントがあちこちですが、反面復興の進まない話が、地元の業者から、漁師さんから聞こえてきます。懸命に頑張っ元気を出そうとしている人々と、待つのに疲れてきている人が分かれ始めているのを感じます。このことで、どのような役割が果たせるか、模索中です。



事務所感想文

4月25日（水）

東（初台リハビリテーション病院）

今日は安仁屋さんが来て下さり、久しぶりに2名での活動でした。2人だと色々相談が出来るので安心して作業を進められます。

安仁屋（厚生中央病院）

本当に久しぶりに伺いました。東さんのおかげでホームページの更新ができました。今後仕事の調整をし、事務所のボランティアは近隣のMSWに声を掛けていきたいと思います。もちろん私自身も努力します。

5月2日（水）

東（初台リハビリテーション病院）

活動記録の編集作業が追い込みを迎えています。5月の全国大会で皆さんにお披露目できるよう、あともう少しがんばります。